

2025 年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	井上 幸子
研究テーマ	近世の百姓移動に伴う寺院の動向に関する研究
研究概要	近世における百姓移動と寺院の関係について、19 世紀江戸の後背地である北関東の村々の耕地再開発を担った入百姓を媒介した真宗寺院と僧侶を素材として検討する。

1. 研究活動の概要と研究成果	<p>近世後期の「入百姓」について、真宗寺院の動向を中心に史料分析を行った。その結果、入百姓取立村における真宗寺院建立のための寄進記録からは、本山からの援助が一切なくとも、入百姓が建立費用の大部分を自力で負担し得るだけの経済力を備えていたことが確認できた。また、寄進内容の検討を通じて、常陸南部における入百姓の分布、既存百姓との関係、生業の一端も把握することができた。さらに、仙台藩儒による入百姓定着策を北関東の実態と対照したところ、入百姓の定着・安定には、寺院および僧侶の教化力が高く評価されていた点が明らかとなった。加えて、北関東においては真宗寺院が既存百姓と入百姓の融和を促す「場」として機能しており、その背景には宗祖・親鸞の伝承が重要な役割を果たしていたことが確認された。</p>
2. 学術論文・学会発表等	<p>〔論文等〕</p> <p>単「入百姓「足留」寺院の設置-常陸国麻生藩領の真宗寺院-」『佛教大学総合研究所紀要』第 33 号、pp. 15～32、佛教大学総合研究所（2026 年 3 月、査読有）</p> <p>単「仙台藩儒桜田虎門の「新百姓」観と北関東の入百姓-教化・安定の言説と実態-」『埼玉大学紀要(教養学部)』第 61 巻第 2 号、pp(一)～(十六)、埼玉大学教養学部（2026 年 3 月、査読無）</p> <p>〔発表〕</p> <p>単「佛教大学 Open Research Weeks 2025」ポスター展示、2025 年 11 月 1 日～28 日、佛教大学紫野キャンパス 1 号館 1 階、二条キャンパス 1 号館 1 階</p>
3. 競争的資金等への応募と採択	<p>2026 年度科学研究費(若手研究)「近世後期における北関東農村の入百姓による「荒地」利用と農業構造の変化」(採択期間 2026～2029 年度)</p>
4. 今後の課題	<p>寺院本堂をほぼ自力で建て得るほどの経済力を入百姓が備えるに至った要因を明らかにするには、彼らの生業に関する詳細な史料分析が不可欠である。入百姓の生業分析を一層進める必要があり、この点は来年度科学研究費に採択された研究課題の遂行によって克服を目指す。</p>